

## さようなら、敦典さん

福元、圭太

九州大学大学院言語文化研究院国際文化共生学部門：准教授：現代ドイツ文学・思想

---

<https://doi.org/10.15017/13986>

---

出版情報：言語文化論究. 24, pp.159-160, 2009-02-28. 九州大学大学院言語文化研究院  
バージョン：  
権利関係：

## さようなら、敦典さん

福 元 圭 太

鈴木さん、いま使っているドイツ語の教科書に、「日本人は死者に直接語りかけることができるのか？」という章があります。ドイツ人は、少なくとも公の機会には、そんなことはしない、ところが日本人は、弔辞を読む時も、遺影に向かって直接逝った人に話しかける、これは不思議だ、と言うのです。しかし私には、何の不思議もない。しばらくあなたと語り合いたいと思います。

あなたと一緒に仕事をしたのは、辞書を編集執筆していた時だった。1994年が初版第1刷なので、もう16年前、いやそれに向けて仕事をしていたのだから、18年も前のことになりますね。辞書の仕事は、まだ続いているですよ。いや、辞書に完成なんかないのは、あなたもご存じのことでしょう。

当時あなたは、細かい形容詞の編集執筆を担当しておられた。箱崎の旧法文学部の建物で、長机をひろげて、あなたは何種類もの獨和辞典や、考えられる限りの独和辞典を並べ、それこそ首っ引きで訳語を精緻に、例句例文を生き生きとしたものにしておられた。いま現在の改訂作業中にも、あなたの書いた項目をいくつも読み返しています。あなたは *heiß* という形容詞の 6 番目の意味として「若者言葉」を提案し、「とてもすてきな、すごい、イケてる」された。年配の先生方は眉をしかめられたが、私はあなたを支持しました（しかし残念ながら、もう「イケてる」も廃れつつあります）。*sacht* という形容詞、「(動作が) 穏やかな、物静かな」には、「Sie befreite sich *sacht* aus seinen Armen. 彼女は彼の腕からそっと身をほどいた」などという、いかにもあなたらしい例文を採用された。

そう、あなたは物静かで、繊細な方だった。学者一家に育ったあなたは、ホフマンスターの研究者として出発した。あんなに美しい詩や散文を書く作家をあなたが選んだのも、わかるような気がする。あなたはまた、音楽に造詣が深く、いやほとんど職業的といえるほど玄人はだして、その長い指でグランドピアノも弾いていたのでしょう。独和辞典の音楽関係の単語は皆、あなた任せだったし、巻末に「ドイツ語音楽用語集」まで作ってしまった。私がブラームスが好きだというと、何が好きですか、ああ、交響曲、え、何番ですか、3 番、4 番、うーん 3 番ならカール・シューリヒトの指揮したものがいいですよ、今度 CD をお貸ししましょう、と言ってさっそく持ってきてくれましたね。実はそのあと、やはりクラシック好きの行きつけの歯医者さんで、同じような質問をされ、あなたからの受け売りをしてきたのです。歯医者の先生が治療しながら聞くものだから、口が開いたままでうまく発音できず、「グラーブズのあん番なだ、ガール・スリードでふね」などという蘊蓄をたれてきました。ああ、いま少し笑いましたね。歯医者の先生はしかし、一瞬手を止め、「シューリヒトですか。いやあ、渋いですねえ」とおっしゃっていましたよ。

どうしてそんなに遠いところへ、急に行ってしまったのですか。あなたの研究室はずっとそのままでした。あなたの研究室に入ってみて、何台ものコンピュータがいまだに稼働していたものだから、どうやって動かすのか、あなたに聞くしかないじゃありませんか。機械のことであなたのお世話をにならなかつた人は、言文にはいないでしょう。初步的なこともできなくて、私も何度もお手を

煩わせましたね。私のマシンがあなたのピアノを弾くような華麗なキーボードさばきによって、ネットにつながったり、メールを読んでくれたりするのを、不思議な思いで見ていました。あなたは私の研究室に入ってくるなり、流れている音楽を最初の2小節ほどで判別して、「おっ、シェンベルクの『浄められた夜』ですね」とほほ笑まれた。あの時は驚きました。

そうそう、あなたの本も最近までそのままだったのですよ。ついこの間、あなたのご家族のご厚意で、あなたの後輩たちである、九大独文の学生たちに、寄贈することができました。学生さんたちは棚をながめては、こんな本もある、あんな本も、と言いながら、自分たちの研究に役立てようと、あなたの本をたくさん、ありがたく引き取っていました。あなたは、こんなふうに、こんなかたちで、これからも生きていくのでしょう。私も1冊だけいただきました。ドイツ語版ストリンドベルクの神秘劇。つくづく趣味のいい方だ。大切にします。

ちょっと長く話しそぎましたね。机の上に広げたままの辞書の仕事に戻ります。いまやっと最初の「A」の初校が出たところなので、まだまだ先は長いです。

あなたとまた一緒に辞書を作りました。

さようなら、敦典さん。